

1回目のさかいまち国際児童画展

藤原敏雄 (境町地域おこし協力隊 アートディレクター)

今から遡る一年前、2023年の1月から2月にかけて開催した「世界のこどもたちの絵画展」(S-Gallery 肅祭寶美術館)は、「さかいまち国際児童画展」に向けての雰囲気づくりと国際児童画展を理解してもらうために、筆者の古巣である「カナガワビエンナーレ国際児童画展」(主催・神奈川県)から絵を借りての展覧会でした。

そして今年2月に「第1回さかいまち国際児童画展」を開催することができました。作品募集の期間は2023年の7月から9月まで、作品審査は同年10月に行いました。そして今年2024年3月3日に表彰式、境町のこどもたちの笑顔が式場に溢れていました。

明治から大正にかけて、日本における図画の学習方法は、お手本の絵を忠実に模写する臨画から始まりました。しかし、版画家で洋画家の山本鼎(1882-1946年)は、大正デモクラシーの自由主義を背景にして、教育への権力統制を排除しようと自由画教育を提唱しました。それは、児童には児童の感性、理性があり、印象、感覚、認識において本来児童にはその実相が備わっているという、児童の創造性を重視した図画教育でした。自由に描かせることから、風景の写生画が盛んになります。写生画の隆盛で画材のクレヨンが普及したそうです。

「さかいまち国際児童画展」の募集対象年齢は、4歳から15歳までです。未就学児は、絵を描くというよりは、絵具や筆に触ってみたい好奇心と、絵具の鮮やかな色に惹かれたりします。絵を描かせようとするとおとなの思考と違って、触覚(筆に触れる)、視覚(絵具の色)、あるいは絵具の匂い(嗅覚)などの身体感覚が未就学児にとっては関心の点ではないでしょうか。小学生になると、目の前にある絵具の色の持

つ意味や感情を理解しようとし始めます。「色彩の学習」と言われています。低学年が描く絵に、テーブルを囲んだ家族や友だち全員がのけぞっている姿がよくあります。これは構図に問題があるのではなく、「折り返し」という、低学年によく見かける表現法で、画面空間の原始的な認識にまだ限定されていることを意味しています。こどもたちに共通したモチーフの繰り返しもあります。それらのモチーフに向けたこどもの関心を大切にしたいと思います。

年齢が上がるにつれ、描画法を習得しながら、社会や自分の内面にテーマを見いだしていきます。今展に内面を表現している絵がありました。また、境町在住の外国籍のこどもたちからも参加があったことは筆者にとって嬉しく思います。境町の友好国と姉妹都市からの参加は、絵を通じた国際交流、異文化理解につながるものと信じています。

筆者の古巣のカナガワビエンナーレ国際児童画展では、いくつものワークショップや関連企画を実行してきました。例えば、会場前のスペースで、あらかじめ用意した型紙(ステンシル)を使って、はがき大の用紙に、何色かのスタンプ台で色づけしたスポンジを押しつけていくワークショップ。これは短時間で楽しめ、完成した作品を壁面に展示するか、持ち帰りたいこどもには作品を持ち帰ってもらいました。○□△、直線などをプリントしたはがき用紙を自宅に持ち帰って絵をつくり、それを事務局に郵送してもらう(あるいは持参)というアート遊びです。無地の紙から絵をつくるのではなく、ヒントになる図形や線があると描きやすくなるという考えからこのアート遊びを行いました。

そのほかにも日本画家のワークショップ、美術家とこどもたちによる壁画制作、美術家の講演会などがありました。こどももおとなも楽しめる美術に関連した映画上映会も開きました。展覧会をいろんな角度から楽しんでほしいという気持ちからでした。さかいまち画

際児童画展も今後このような関連企画で楽しめることができるように望んでいます。



俳句

令和六年一月 境町文化協会俳句部

兼題 「雑煮餅・初句会」 他当季雑詠

雑煮喰む 金色の朝の 日射しかな

香こ

※元朝の日射しの何と美しく荘厳なことよ。平素は考えもしない、大自然への畏敬と感謝の念を改めて深くする。家族揃って、無事、新年を迎える事の出来る幸運をしみじみと噛み締める。

椀二つ ふえてめでたき 雑煮かな

芙蓉

※元日の朝、家族揃って食卓に付く。だが、今年は昨年と違ってお椀の数が一気に二膳も増えたではないか。可愛い孫が、可愛い嫁を娶り、更に立派になって新年を迎えたのである。

和みつつ 緊張走る 初句会

慶子

あな嬉し 待ちに待ちたる 初句会

きみ代

それぞれに 年輪重ね 初句会

信子

具沢山夫の作りし 雑煮餅

幸子

緊張で 一句も読めず 初句会

正子

丸き背をピンと伸ばして 初句会

仁

小さめの 雑煮の餅は 爺と婆

妙子

初句会 平穏な世が 来ますよう

ひろこ

餅ひとつ 年相応の 雑煮餅

きよ乃

雑煮餅 孫に越されし 餅の数

光夫

子や孫と 食べる 幸せ 雑煮餅

春世

永久に 家内安全 雑煮餅

喜一

家族無事 願う 一杯 雑煮餅

すみ子

俳友が 手強く 見える 初句会

雄節

コロナ禍や 夢にまで 見し 初句会

久子

いそいそと 粧ひ凝らし 初句会

美彩

令和六年初句会成績(一月二十日・席題 初日の出)

- 一席 九点 三世代揃ふ 幸せ 初日の出 久子
二席 七点 利根の橋 明け行く 景色 初日の出 美彩
三席 七点 初日の出 家族の健康 念じ合ふ ひろこ

短歌

境短歌会 山鳩

雪降りては しゃぐ子どもの 足元に 小ききダルマ 共にほほえむ

川上京子

水仙の 蕾も今は 膨らんで 明日にも 咲くか 楽しみに待つ

川村米子

幼き日 一家で 住みし 町の名を ふと耳にして 郷愁募る

古谷野信子

春一番 風に 誘われ 白梅の 香りも やさし 夕暮れの時

桜井レイ

春来たし 花の 蕾が 顔を出す もうじき 華やく 庭の片隅

五月女三枝子

楨の木の 葉影に 二羽の 山鳩が つがいな かな 仲良く 並ぶ

鈴木喜與子

早春の 狭庭に 咲きし 水仙に 夢と 希望が 少しだけ 見え

松岡美智子

主なき 大樹の中の 梢高き 白木蓮は 吾を迎える

本島イト子

月日の経つのは早いものでもうすぐ三月になります。早いところでは桜の便りも聞かれるようになりまし。

能登地方の方々のご苦労は寒さの中依然として続いています。少しでも早く生活が楽になることをお祈りしています。

本格的な春に向かい少しでも明るい気持ちで過ごしていきたいと思っています。



宝くじ助成事業を活用して 坂花町の神輿を修復



今までの神輿は、昭和元年に造られ90年以上が経っていることから、老朽化が著しく、今回宝くじの助成金と地区負担金を併せて修復しました。修繕された神輿は、老人会や子ども会、夏祭りなどに活用され、地域交流の推進を地域の連携・協調の促進が期待されています。

※宝くじ助成事業は、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源として実施されている事業です。

S-Gallery 肅祭寶美術館 information 茨城県猿島郡境町 1455-1 TEL:0280-23-4148



令和6(2024)年度企画展

- 卯野和宏×久野和洋展「水脈の声」(4/3~5/6) ●肅祭寶展
●隈研吾展 ●たつみなつこ展 ●中嶋明展 ●光山明展
●第2回さかいまち国際児童画展(予定)